話題の広場

中央会事業より

ブランドチャレンジモデル事業を開催（高茂合名会社）
～異業種とのコラボレーションによる海外デザイン賞への挑戦～

高茂合名会社（高橋嘉彦代表社員）は、創業から約150年続く味噌醤油の老舗蔵元として皆瀬川の伏流水を用い、7つの土蔵による天然醸造を行っています。しかし、人口減少や食の多様化により味噌醤油の消費量は減少の一途を辿っており、既存の取引形態のままでは企業としての衰退を免れない状況にあり、国内外の市場開拓に活路を見い出すこととしました。

そこで、本会の**「ブランドチャレンジモデル事業」**において、海外でも通用する信用力や認知度を得るため、県内のアパレルデザイナーであるリトルマザーハンズ船木一人代表とのコラボレーションによる海外デザイン賞への申請に向けた支援を行いました。

［第2回事業の様子］

当事業では、**ブランドのコンセプトである「旅×調味料」の要素を組み込みつつ、アパレル視点との融合によるトランクケース型のパッケージ商品を完成させ、昨年12月に海外デザイン賞への申請を完了しました。**

高茂合名会社では今後、県内外から観光客を呼び込むための新たな挑戦に取り組むとともに、国内外の展示会に積極的に参加することで、新規顧客の獲得を図っていくこととしています。

地域ブランド活用推進懇談会を開催　～価値ある地域ブランドの「つくり方」を学ぶ～

本県には、稲庭うどんやきりたんぽ、ハタハタ、じゅんさいといった全国に誇れる地域ブランドが数多く存在するものの、県内の人口減少や高齢化を見据え、需要や販路の維持・拡大を今後どのように図っていくかが課題となっています。

このため、本会では県内の地域ブランドの現状や課題、支援ニーズを踏まえ、地域ブランドを攻めのツールとして有効活用する方法や効果的な需要拡大、地域ブランド同士による連携の方策を探ることにより、「秋田の特産品」のブランド化を推進し、差別化と競争力の強化を図ることを目的に、今年度の新規事業である**「地域ブランド活用推進懇談会」**を開催しています。

1月19日（火）、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において第2回懇談会を開催し、地域団体商標の取得団体及び地域ブランドを有する団体等11名が出席しました。

講師を務めた一般社団法人食農共創プロデューサーズ（東京都）の長谷川潤一代表理事は、地域と食・農の連携コーディネートのスペシャリストとして、地域を巻き込んだブランド化の実績を数多く有しており、**「地域の産品や商品がブランドになることはあっても、『地域ブランド』になることはない。地域ブランドとは、その地域で作られる商品やサービスに加え、地域自体のイメージが高まり、域外からヒト・モノ・カネが集まり地域活性化に結びつく『戦略』のことであり、何をしたいのかが明確でないとブランド化は成功しない」**と持論を展開され、出席者は地域ブランド力を高めていくためのポイントを具体的に学ぶことができました。

［講師を務めた長谷川潤一代表理事］

また、懇談では、ブランド力向上のための品質基準づくりや、地理的表示制度の申請に関する質疑応答が行われるなど、大変有意義な懇談会となりました。

本会では、今後、各団体のブランド化の取組をフォローアップしていくことにより、ブランド力の向上に繋げていくこととしています。

トータルサポートアドバイザー事業を開催

本会では今年度、秋田県中小企業振興条例に則し、県内中小企業の経営基盤・企業競争力の強化や新たな市場の開発、農商工連携や地域資源、経営革新等を活用した事業活動の促進を目的に、新規事業である**「トータルサポートアドバイザー事業」**を全5事業所を対象に実施しています。

このうち、本号では、秋田県製麺協同組合（近藤隆平理事長）の組合員である株式会社元氣屋（北秋田市）、並びに秋田県信用組合（北林貞男理事長）の組合員である株式会社REALE Lab（秋田市）における経営革新計画の策定に向けた取組内容についてご紹介します。

株式会社元氣屋　～新たな麺商品の開発による事業拡大を目指す～

株式会社元氣屋（虻川敬代表取締役）は、ラーメン店を中心とした飲食店経営に加え、麺類の製造・卸売を行っていますが、大口取引先であるスーパー部門の競合が激しく、苦戦を強いられています。

そこで当社では、お土産用商品をはじめとする一般消費者向けの商品開発と販路開拓による新たな事業展開を図っていくため、1月7日（木）、同社において第1回事業を開催し、現在の経営上の問題点・課題等を検証した上で、開発商品の内容や試作に係る経費、今後必要となる設備等の洗い出しを行い、今後の方向性を検討していくことを確認しました。

同社では、今後、自社の置かれている市場環境や有している経営資源を明確化することにより、経営革新計画の策定を視野に入れ、新商品開発に向けた今後の方向性を絞り込んでいくこととしています。

株式会社REALE Lab　～既存商品の販路開拓と新たな加工食品の開発を目指す～

株式会社REALE Lab（田口幸絵代表取締役）は、昨年4月の創業以来、「おいしさと健康の両立」をキーワードに食品業界の定説にとらわれない発想と特殊製法による独自商品の開発に着手し、果実が自らの酵素を用いて熟成する「自己消化」作用を利用し抽出した無塩の「梅エキス」及び「梅ピューレ」の製造・販売をメインに活動しています。この果実エキスの抽出方法は様々な果実に活用出来るものの、それら商品の販売先の開拓が課題となっていたため、1月13日（水）、同社において第1回事業を開催し、柱となる既存商品に加え、他の果実（山ブドウ、イチゴ、リンゴ等）による新たな加工食品の商品化に向け、現在までの取組による問題点をあぶり出し、委託加工先の選定や量産化のための具体的スケジュール等について検討しました。

同社では、今後、目標としている経営革新計画の承認申請に向け、具体的な販売戦略策定に着手することとしています。

アラカルト　●a la carte●

■秋田杉によるプロトタイプ家具を製作（協同組合秋田県家具工業会）
～秋田発・日本発による世界標準の家具づくりに着手～

［試作したテーブル・椅子］

本県は、豊富な森林資源を有しており、中でも「秋田杉」は400年以上も前に戦国武将の豊臣秀吉が伏見城の改修用材として使用したことで知られています。

そこで、協同組合秋田県家具工業会（半田健喜理事長）の組合員である有限会社萩原製作所（萩原易雄代表取締役）では、デザインプロデューサーの喜多俊之氏（大阪府）が掲げる「国産材の高付加価値利用を進め、日本から新しい世界の家具標準をつくる」という姿勢に共感し、秋田杉というブランドを再認識し家具として世界に発信すべく、同社が主体となり喜多氏による監修の下、秋田県並びに公益財団法人あきた企業活性化センター、藤島木材工業株式会社（北秋田市）の協力を得て、「秋田発・日本発による世界標準の家具づくり」に取り組んで来ました。

この度、秋田杉によるテーブルや椅子のプロトタイプ（試作品）家具が完成し、昨年10月には国際見本市「LIVING&DESIGN 2015」へ出品し、好評を得ました。

有限会社萩原製作所の萩原易雄社長は、「**秋田県では、林業・木材産業等地場産業の成長産業化や地域社会の活力創出を図るため、地元の木材を優先的に活用する『ウッドファーストあきた』を推進しており、今後は秋田杉による『こだわりの家具』を世界へ発信することにより、その一翼を担っていきたい。**」と抱負を述べられました。

なお、この度試作したテーブルや椅子は、製品改良を経て、今年後半頃の発売を予定しています。

「秋田県新作家具・インテリア展　2016」を開催します！

協同組合秋田県家具工業会では、長く愛され末永く使える家具を目指し、家具を製作しています。今年も「秋田県新作家具・インテリア展 2016」を開催致しますので、是非ご来場下さい。

○開催期間　平成28年3月18日（金）～ 3月21日（月）
○開催場所　秋田市　アトリオン「イベント広場」
［お問い合わせ先］　協同組合秋田県家具工業会　☎018-883-1191

新設組合紹介

秋田シニアライフ協同組合　～「終活支援」に特化した組合を設立～

鈴木道雄理事長

【組合の紹介･PR】 秋田県の総人口に対する65歳以上の高齢者人口の割合は、平成27年7月現在で33.6%と全国で最も高い高齢化率となっています。

そこで、異業種である12名のメンバーがこれまで培ってきたノウハウや知識を持ち寄り、相続に関することや葬儀、お墓、供養など様々なニーズに対応した事業を行うことにより、生きることの楽しさや後悔のない準備に向けた終活支援・ライフサポートを通じ、広く社会に寄与することを目的に、秋田シニアライフ協同組合を設立しました。

【理事長から一言】

「終活」は、人生の終焉を考えることを通じて自分を見つめ、今をよりよく自分らしく生きる活動であると考えています。

今後は、高齢化社会やひとり暮らしが抱える様々なニーズに対して、地域や縁者に代わって気軽に相談することが出来るワンストップ相談窓口を設置し、将来の不安を解消するためのセミナーの開催等、終活を考えることを文化として捉え、種々の取組を行っていきたいと考えています。

- **所 在 地**　秋田市中通四丁目14番16号
- **代表理事**　鈴木　道雄
- **出 資 金**　5,970,000 円
- **組合員数**　12 名
- **主な事業**　組合員の取り扱う商品・役務の共同受注・共同宣伝
- **成立年月日**　平成28年1月5日

インフォメーション

本会人事異動のお知らせ（2 月 1 日付）

（　）は前職

◎事業振興部

○横手支所主査　芳賀　洋子
（事業振興部工業振興課主査）

◎総務企画部

○総務課主事　深沢　さやか
（事業振興部横手支所主事）

中央会の会員組合のための融資制度（中小企業組織融資制度）をご利用下さい！

秋田県中小企業団体中央会に加入している中小企業組合及びその組合員は、株式会社商工組合中央金庫からの借入金利が優遇され、負担が軽減されます。是非ご利用下さい。

平成 27 年 12 月末現在の利用実績：設備資金 3 件、運転資金 15 件（転貸含む）

【中小企業組織融資制度の概要】

	設備資金	運転資金
限　度　額	**組合 5 億円、組合員 2 千万円** ※ 組合が総会で決定した借入金・貸付金の額によります。	
金　　利	**商工組合中央金庫所定金利の 0.5%減**	
期　　間	10 年以内	7 年以内
担保・保証人	商工組合中央金庫の定めによる	

※　なお、**特定のテーマ（ものづくり、地域資源活用、海外展開 等）に取り組む場合は、「中央会推薦貸付制度」もご利用いただけます。**

制度の概要につきましては、本会までお問い合わせ下さい。

［お問い合わせ先］
本会　企画広報課
（☎018－863－8701）

確定申告について（国税庁）

2月16日（火）から、所得税及び復興特別所得税、贈与税、並びに個人事業者の消費税及び地方消費税の確定申告が始まります。

国税庁のホームページでは、納税者の皆様の利便性向上のため、確定申告書等が作成できる「確定申告書等作成コーナー」や、自宅などからインターネットを利用して申告・納税ができる「e-Tax」の利用をおすすめしていますので、是非ご利用下さい。

［国税庁ホームページ］　http://www.nta.go.jp